

## 地域銀行の平成 26 年 3 月期決算の概要

### 1. 損益の状況

- 実質業務純益は、役務取引等利益が増加したものの、貸出金利息及び債券等関係損益の減少等により、前期に比べ 4.4%の減少。
- 当期純利益は、与信関係費用や株式等関係損益が大幅に改善したことなどにより、前期に比べ 31.3%の増加。

(単位：億円)

	24 年 3 月期	25 年 3 月期	26 年 3 月期	前期比
業務粗利益	49,107	48,543	47,808	▲ 735
資金利益	42,396	41,048	41,048	▲ 0
役務取引等利益	4,594	4,790	5,096	306
債券等関係損益	1,363	1,958	926	▲ 1,032
うち、債券等償却	▲ 136	▲ 142	▲ 41	101
経費	▲ 31,912	▲ 31,143	▲ 31,171	▲ 28
実質業務純益	17,195	17,399	16,636	▲ 763
与信関係費用	▲ 2,912	▲ 3,650	▲ 1,787	1,863
株式等関係損益	▲ 1,230	▲ 811	1,256	2,067
うち、株式等償却	▲ 797	▲ 721	▲ 63	658
当期純利益	7,272	8,157	10,709	2,552

(参考)

	24 年 3 月期	25 年 3 月期	26 年 3 月期
貸出金（末残）	213.1 兆円	219.1 兆円	225.4 兆円

### 2. 不良債権の状況

- 不良債権額は前期に比べ減少、不良債権比率も低下。(いずれも平成 11 年 3 月期の金融再生法に基づく開示以降で最低)

	24 年 3 月期	25 年 3 月期	26 年 3 月期
不良債権額	6.8 兆円	6.8 兆円	6.2 兆円
不良債権比率	3.16 %	3.07 %	2.72%

### 3. 自己資本比率の状況

- 国際統一基準行の総自己資本比率は前期に比べ低下したものの、普通株式等 Tier1 比率は前期に比べ上昇。
- 国内基準行は 26 年 3 月期より新国内基準の適用を開始。

(国際統一基準行(※)：10行)

	25 年 3 月期	26 年 3 月期
総自己資本比率	14.30%	14.28%
Tier1 比率	12.01%	12.63%
普通株式等 Tier1 比率	11.98%	12.59%

(国内基準行：96行)

	26 年 3 月期
自己資本比率	11.04%

※ 国際統一基準行は25年3月期よりバーゼル3を段階的に適用。26年3月期においては、経過措置の対象となっているバーゼル2適格の劣後債等の算入限度額が段階的に引き下げ(90%⇒80%)られており、総自己資本比率の押し下げ要因の一つとなっている。

(注1) 26年3月期の集計対象は106行(地方銀行64行、第二地方銀行41行及び埼玉りそな銀行)

(注2) 計数は単体ベース。ただし、与信関係費用・不良債権の計数には、再生専門子会社分を含む。